

スケジュール帳から

加藤文子

毎年秋になるとスケジュール帳を注文する。見開きで一カ月が見渡せて、一日ごとに升目で仕切られている。勝手が良いので同じタイプのをずっと使っている。

予定を書き込んだり、主に植物に関してだが、行ったこと、気づいたこと、天候などを記す。小さな升目にごく簡単に書いておく。

たとえば、春や秋の植え替えや施肥に関して、また防寒のため温室に取り込んだ盆栽を春からどんなふうに外棚へ移したのかなど、反省事項も併せて日々記録する。

長年メモした事柄を参考にしてきた。なんでもないようで、けっこう役に立つのだ。もう少しでスケジュール帳は、四十冊目になる。

新しいのが届くと、それを手にすると、どんなキレイに出会ったのか、これから綴られる未知のでき事に思いが膨らむ。さっそく一月から十二月、それぞれのページの上方の余白に、昨年から今年、



今年から来年、申し送りのように、忘れてはいけない各月のテーマ、要点を書き写す。

一月の余白には、。冷え込みピーク十日頃から二月下旬。外仕事は十一時頃から二時がベスト。ペゴニアの開花二十日頃。午後四時三十分でも明るい。野草の古葉整理。実を取り除く等、注意を促せばと思えば自分でみて判るようなカタチでとりとめなく書いています。

那須は新年を迎えてからしばらくはおだやかに過ごせる。ホンワカ気分していると、半ば頃から寒さは厳しくなり、大雪に見舞われたりして、仕事も思うように進められなくなる。交通事情から約束ごと延期になったり、予定が立たなくなることも多いのが一月だ。

陽気に惑わされず、できなくなってから後悔しないように、するべきことは済ませておく。これが肝心。

メモに照らし合わせて、月々の流れを思い出しながら、優先順位を考えて過ごすようにしている。一年のめぐりをかいつまんで記してみると……。

●二月から三月：寒のあいだをぬって用事をすすめる。春からは盆栽の作業が忙しくなるので、オリジナルカレンダーの制作をはじめ、初夏の展覧会や自宅の別棟で四月から十一月まで開く週末のギャラリーの準備を行う。

●四月から五月：いよいよ春到来。余白の書き出しに、やることいっぱいである。冬眠から目覚めた植物たちの活動はめざましい。動きに合わせて、植え替え、手入れ、虫対策、水やりなど庭仕事

に追われる日々がはじまる。

●六月：風もさわやか、みどりが眩しい。日射も強くなるので、庭の中央に寒冷紗を張る。

●七月から八月：蚊取り線香にむせながら、暑い暑いと言って水やりや草刈りに勤しむ。てぬぐい大活躍。暑さに気をとられて水やりを怠らないこと。

●九月：寒冷紗を取りはずす。春に行えなかった盆栽の植え替えと施肥。暑さも和らいで秋風の立つな静かな気持ちで植物と対面する。春からの成果、それぞれの良いところに気づける愉しみな季節。虫の音と一緒に、手入れする鉢の音もよく聞こえる。

●十月から十一月：温室へ盆栽を取り込むための段取りを組む。温室内の清掃、棚洗いなど。寒のおとずれに合わせて、取り込み開始。

●十二月：取り込み終了。水やりは昼前後、暖かな時間帯に行く。年賀状書き、一年の締めくくり、細々した片づけ、大そうじ。今年の無事に感謝して神棚をあらたにして、新年を待つ。

いちじるしい気候変動は、盆栽の生育にも影響を与えている。それに伴い、育て方など内容も変わってきた。

スケジュール帳に記した雪マークは少なくなった反面、厳寒期は長い。加えて年間通じて雨マークが増え、晴天の日は減少傾向にある。

記録をみていると、どうしても地球環境のことに思いが及んでしまう。何を……どうすれ



ツキヌキニンドウ ある日のクレイ

ば……。ささやかでも、改められること、できることを思念する。地球をおかしくしていることには、なるべく加担しないで過ごしていきたい。自然にそうしていただける自分でありたいと願う。